

V O L U M E

# 19

DK VOICE Vol.19

## 第48期 株主通信

2020年4月1日 ―→ 2021年3月31日

**DK** ダイコク電機株式会社

証券コード 6430

目次

社長インタビュー

*Top interview*

機会を着実に捉えて  
業績回復を図り、  
再成長を果たして  
まいります。

連結決算ハイライト

業界動向

事業概要・セグメント情報

トピックス

会社及び株式の状況

裏表紙

09

07

06

05

01

# 機会を着実に捉えて業績回復を図り、 再成長を果たしてまいります。



代表取締役社長

大上 誠一郎

新型コロナウイルス感染症の蔓延が続くなか、お亡くなりになった方々に謹んでお悔み申し上げます。罹患された方々が一日も早く回復され、また感染症が終息し、皆さまの平穏な生活が戻りますことを心よりお祈りいたします。

**Q** コロナ禍の影響による市場環境の変化と、ダイコク電機の対応についてお聞かせください。

**A** 感染拡大当初の想定を超え、業界全体が甚大な影響を受けて停滞し、先が見えない1年となりました。

この1年間、パチンコ業界を取り巻く環境は、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響を受けて大きく変化し、極めて厳しい状況となりました。

2020年4月に1回目の緊急事態宣言が発出され、パチンコホールが休業を要請される中で、当初は年度後半から感染収束に向かうと見ていましたが、夏には感染第2波の到来を受け、コロナ禍による影響の長期化を想定せざるを得ない状況となりました。

2021年3月期は当初、パチンコ・パチスロの新規則機への入れ替えが進み、市場活性化の起爆剤になると期待していましたが、感染拡大に伴う休業・営業時間短縮

の実施など、パチンコホールにおける状況の変化を鑑み、旧規則機の設置期限が1年延長されたことにより、多くのパチンコホールにおいて設備投資計画がリセットされました。まさに先が見えない1年、市場が止まった1年間だったと思います。

その中で私たちは、生き残りをかけて経営の安定化を図り、事業の継続と社員の雇用維持に努めました。財務施策として、まずキャッシュアウトを精査し、全社的な経費の見直しを行いました。

一方、社員とその家族、関係者の健康を守ることを最優先とし、接触による感染を防止すべく、テレワークを推進し、社内会議についてもWebミーティングに切り替えることで、クラスターの発生要因の排除に努めました。また、社内のみならず協力会社を含めたすべての

## 2021年3月期連結業績実績

|                     |                                  |
|---------------------|----------------------------------|
| 売上高                 | <b>23,228</b> 百万円 (前年同期比 29.4%減) |
| 営業利益                | <b>490</b> 百万円 (前年同期比 65.7%減)    |
| 経常利益                | <b>986</b> 百万円 (前年同期比 41.1%減)    |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益 | <b>612</b> 百万円 (前年同期比 42.3%減)    |

関係者との間で、感染防止に向けた情報を共有・一元化し、状況をスピーディーに捉えて対応できる体制を敷きました。

## Q 2021年3月期における各事業の取り組みと業績についてご説明願います。

### A 情報システム事業・制御システム事業ともに業績が悪化し、大幅な減収・減益を余儀なくされました。

情報システム事業では、こうした有事の状況においてこそ業界トレンドの情報発信が求められると認識し、その継続に傾注しました。当然ながらパチンコホールへの対面営業は、積極的な活動を控えましたが、営業活動の抑制をカバーする取り組みとして、2020年9月に業界初のオンライン形式による「Web展示会＆セミナー」、2021年3月にも「Webセミナー」を開催し、主要製品の紹介や管理手法の提案を行ったところ、例年以上に多くのパチンコホール経営者さまにご参加いただき、好評を博しました。Webの活用による営業活動やイベントについては、その利点を踏まえ、今後も実施していきたいと考えています。

一方、厳しい市場環境の中で、情報システム事業の

売上確保は苦戦を強いられ、主要製品の販売が大きく減少する状況となりました。しかし「遊タイム」機導入の進展を背景に、情報公開端末「REVOLA」や「IL-X3」の販売は堅調を示し、「Web展示会＆セミナー」での各種提案も奏功したことで、年末商戦以降は順調に推移しました。また、この動きにあわせて「遊タイム」機のデータ管理に役立つAIホールコンピュータ「X(カイ)」のシステムアップ導入件数も、前期実績の約9割まで進捗しました。

結果として、情報システム事業の売上高は174億62百万円(前年同期比33.7%減)、セグメント利益は19億39百万円(同37.5%減)となりました。

制御システム事業では、旧規則機の設置期限の延長を受け、遊技機メーカーが市場投入を予定していた新作タイトルが発売延期となり、さらに今後の新作タイトルの開発着手に対しても慎重姿勢に転じたことから、当社及び子会社の開発会社としての稼動維持が重要な課題となりました。この状況を乗り越えるべく、従来以上に小規模な受託案件についても積極的に獲得し、開発業務の拡大を図り、同時にリソースの再分配や工程の見直しに取り組んだことで、稼動を維持することができました。

一方、当期の営業状況においては、部品販売は前期実



績を上回りましたが、表示ユニット及び制御ユニットの販売は減少しました。

その結果、制御システム事業の売上高は57億75百万円(前年同期比12.5%減)、セグメント損失は15百万円(前年同期はセグメント利益78百万円)となりました。

以上により当期の連結業績は、売上高232億28百万円(前年同期比29.4%減)、営業利益4億90百万円(同65.7%減)、経常利益9億86百万円(同41.1%減)、親会社株主に帰属する当期純利益6億12百万円(同42.3%減)となりました。利益面においては、全社的な経費の見直し効果と受取分配金の増加によって、期初の予想よりも減益幅は縮小しました。



**Q** 今後の市場環境をどのように展望し、ダイコク電機はどのような取り組みを進めていきますか？

**A** 新規則機への入れ替えが進む中で  
売上拡大のチャンスを獲得。  
提案力・現場力を発揮していきます。

足もとでは、パチンコホール軒数の減少が続いていますが、延長された旧規則機撤去の最終期限が

2022年1月31日に定められていることから、今期中に新規則機への入れ替えが進んでいく中で、売上につながるチャンスを獲得できる見込みです。そのチャンスをどう生かしていくか、当社にとって、提案力・現場力が問われる1年となります。

近年、パチンコの有力タイトルが市場投入されることで、ホールではパチンコによる利益がパチスロを大きく上回る傾向が顕著となっており、大手ホールを中心にパチンコにシフトする動きが出ています。そうした状況を踏まえ、今期はパチンコの有力タイトルが早期に投入されることで、ホールの収益改善が進み、M&Aなど設備投資を伴う動きも活性化してくると思っています。当社は、こうした機会を着実に捉えていきます。

また、新規則機では多くの機種に「遊タイム」が搭載される見込みとなっており、今後パチンコホールの経営において、これを生かしたシミュレーションが重要になってきます。そのシミュレーションを可能とするホールコンピュータは当社のAIホールコンピュータ「X」しかありません。これを差別化として打ち出し、端末の導入につながるシステムを売り込んでいく。それが情報システム事業の最重要課題となります。

制御システム事業は、これまでパチンコの受託開発

ビジネスを手掛けてきましたが、新規則機に移行した後の市場において、どのような成長を目指すのか、方向性を定めていく転換期にあります。その中でこれからの事業展開は、2020年から開始したパチスロ筐体ビジネスを柱の一つとしていく考えです。

なお、今後想定されるリスクとして、半導体不足による影響が今期後半から遊技機市場に広がっていく可能性がありますので、今後の状況を注視してまいります。

**Q** 2022年3月期の各事業における重点テーマと業績の見通しをお聞かせください。

**A** 各事業における営業状況の回復を前提に、  
増収・増益を予想。抑制していた開発投資を再開します。

今期の情報システム事業は、旧規則機の撤去と新機種の投入による入れ替え需要の活性化を想定し、増収を見込んでいますが、この1年抑制した開発投資の再開により費用が増加する予定です。これを踏まえ、売上高は195億円(前年同期比11.7%増)、セグメント利益は18億50百万円(同4.6%減)を予想しています。

感染症の拡大に伴い、足が遠のいたファンにも安心

して遊技していただける環境づくりを当社の製品・サービスで支援し、パチンコホールの業績回復に寄与することを最優先課題と捉え、「遊タイム」機のデータ管理に役立つAIホールコンピュータ「X」の普及促進と、商圈分析サービス「Market-SIS」の導入拡大を図ります。

制御システム事業は、パチスロ筐体ビジネスを含む受託開発の拡大により増収し、利益面では子会社であるアロフトの業績が寄与し、増益・黒字転換を果たせる見通しです。売上高は65億円(前年同期比12.5%増)、セグメント利益は6億円(前年同期はセグメント損失15百万円)を予想しています。

上記に述べました両事業における業績の向上に加え、グループ全社を挙げた経費の見直しにより、今期の連結業績については、売上高260億円(前年同期比

#### 2022年3月期連結業績予想

|                     |                   |                |
|---------------------|-------------------|----------------|
| 売上高                 | <b>26,000</b> 百万円 | (前年同期比 11.9%増) |
| 営業利益                | <b>850</b> 百万円    | (前年同期比 73.2%増) |
| 経常利益                | <b>1,000</b> 百万円  | (前年同期比 1.3%増)  |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益 | <b>650</b> 百万円    | (前年同期比 6.1%増)  |

11.9%増)、営業利益8億50百万円(同73.2%増)、経常利益10億円(同1.3%増)、親会社株主に帰属する当期純利益6億50百万円(同6.1%増)と、増収・増益を予想しています。

**Q 株主の皆さまへのメッセージをお願いします。**

**A 遊技機市場における圧倒的な差別化を鮮明にし、厳しい環境下での生き残りを果たしてまいります。**

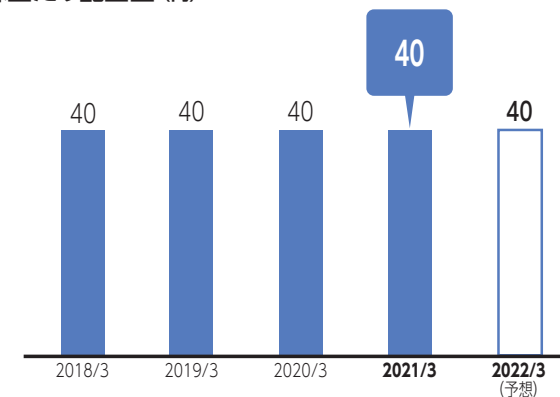
当社は、株主の皆さまへの利益還元を経営の最重要課題と認識し、環境変化への対応や成長投資に必要な内部留保とのバランスを勘案しつつ、安定配当の継続に努めることを基本方針としています。ここにご報告の通り、当期の業績は大幅な減益となりましたが、今回の期末配当は、本方針に基づき従来の水準を維持し、期初の予定通り1株当たり30円とさせていただきます。これにより、中間配当の同10円と合わせた年間配当は同40円(前期同額)、連結配当性向は96.5%となりました。2022年3月期の配当額については、引き続き同水準を維持する考えで、年間同40円(中間10円・期末30円)を予定しています。

この1年間は、当社事業にとって大変厳しい状況となり、株主の皆さまにも大変ご心配をおかけしました。コロナ禍による影響については、依然として先行きが不透明で予断を許さない様相にありますが、パチンコ業界を取り巻く市場環境は、前年の停滞から確実に動き出しており、改善傾向を示しています。

その中で当社は、新規則機への移行のタイミングをチャンスとして、業績の回復を遂げ、成長軌道への回帰を実現していく考えです。

株主の皆さまにおかれましては、これからの当社事業の変化にご期待いただき、長期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

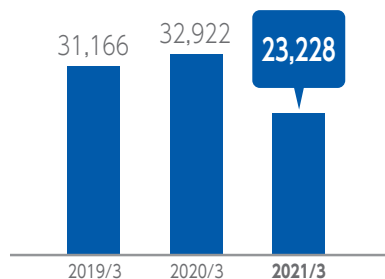
#### 1株当たり配当金(円)



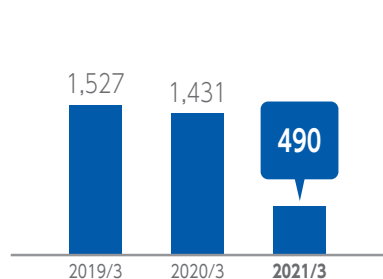
# 連結決算ハイライト

(単位：百万円、単位未満は切捨て)

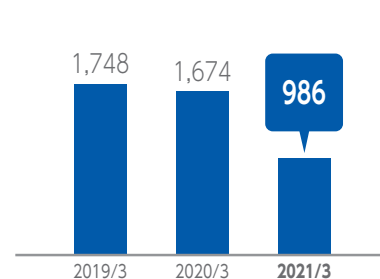
## 売上高



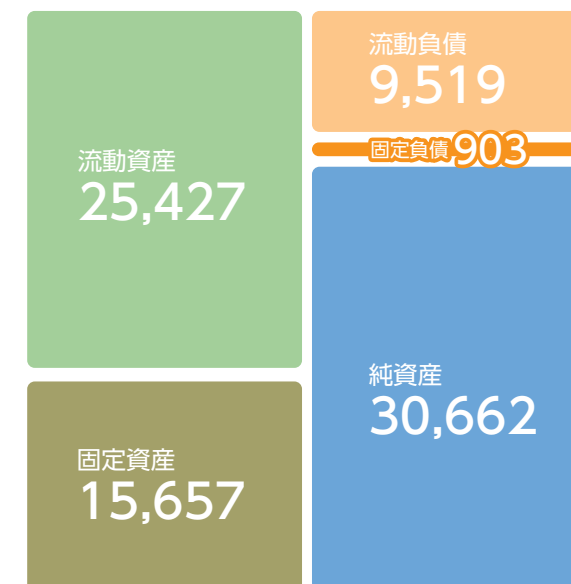
## 営業利益



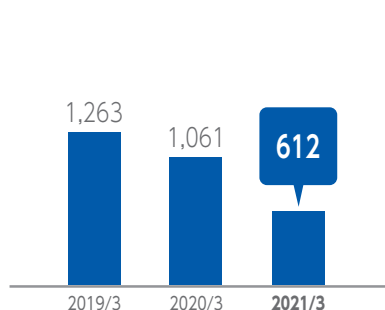
## 経常利益



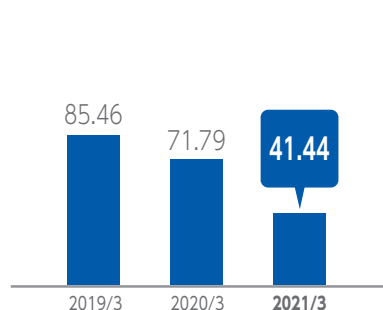
## 2021年3月期 資産の状況



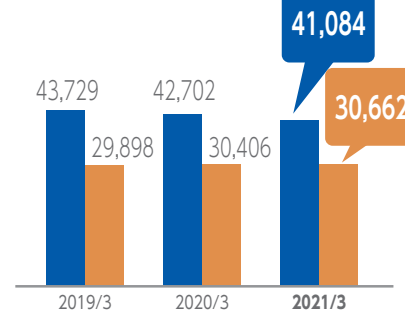
## 親会社株主に帰属する当期純利益



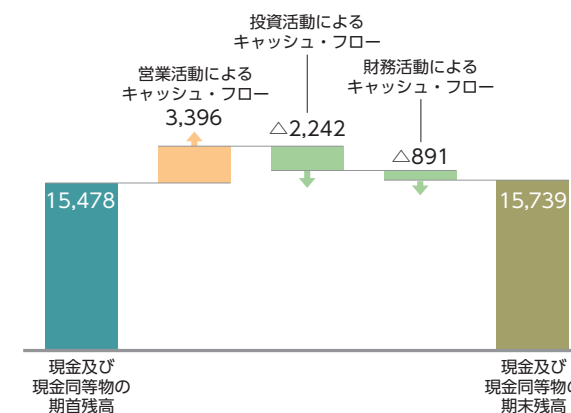
## 1株当たり当期純利益 (円)



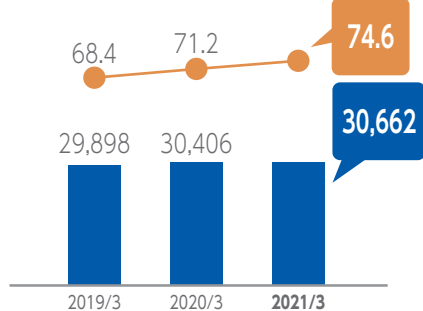
## 総資産 純資産



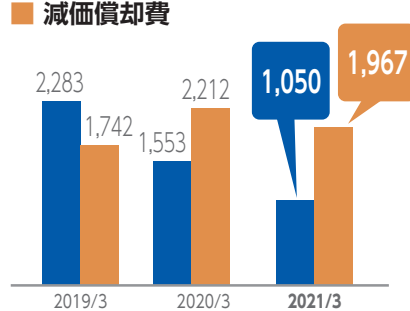
## 2021年3月期 キャッシュ・フローの状況



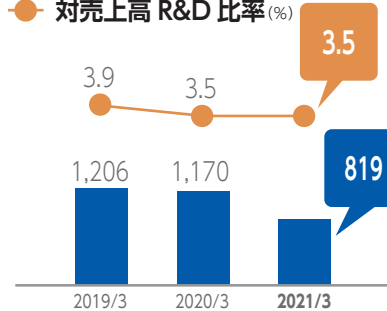
## 自己資本 自己資本比率 (%)



## 設備投資額 減価償却費

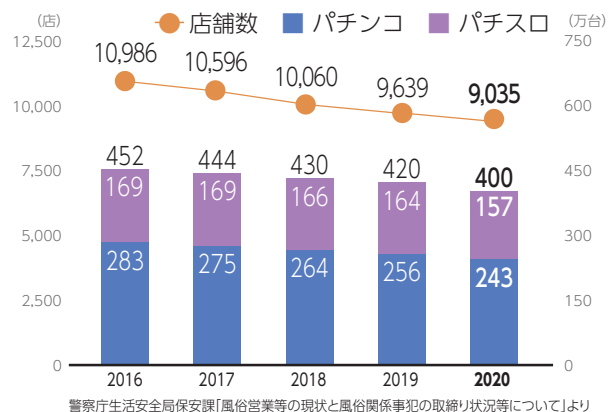


## 研究開発費 対売上高 R&D 比率 (%)





## ■ パチンコ店舗数と遊技機設置台数の推移

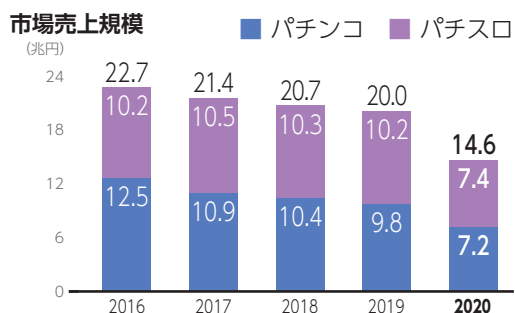


2020年の店舗数は9,035店舗となり、店舗数の長期にわたる減少傾向が続いています。遊技機設置台数も同様に減少傾向が続いています。

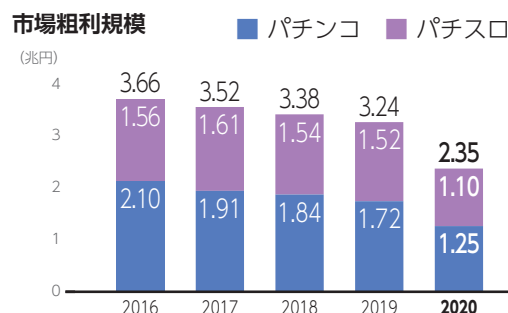
パチンコ遊技機・パチスロ遊技機別では、ともに約5%と同程度下落率となっています。パチスロ遊技機はここ数年減少のペースが緩やかでしたが、2020年は下落率が大きくなっています。

2020年の設置台数別店舗数を2019年と比較すると、ほとんどの区分で2019年を下回る店舗数となっており、特に301台～500台の比較的小規模な店舗の減少が目立っています。平均設置台数では、前年に比べ8.0台増加の443.3台と、全体の店舗数が減少する中においても増加の一途をたどっており、店舗の大型化が引き続き進んでいることが分かります。

## ■ 「DK-SIS」が推測する売上規模・粗利規模※（「DK-SIS白書 2021年版」より）



業界の市場規模はDK-SISの実データからの推測で、2020年（1月～12月）の売上規模は約14.6兆円、粗利規模は約2.35兆円となりました。売上規模・粗利規模ともに年々縮小傾向にありましたが、2020年は30%近い大幅な下落となりました。パチンコ・パチスロ別にみても、売上規模・粗利規模ともに同程度の下落となっています。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う休業により、市場規模の前年比は遊技機1台当たりの業績よりも大きな下落率となりました。



パチンコ・パチスロ別で見ると、2020年のパチンコ遊技機1台当たりの業績は、稼働時間・粗利ともに前年比で約20%の減少と大幅に下落しました。過去4年間の業績も減少傾向でしたが、2020年は前例のない下落率となっています。2020年のパチスロ遊技機1台当たりの業績も、前年と比較して稼働時間・粗利とも同様の減少となりました。2020年の稼働時間は2007年～2008年の4号機から5号機の入替の際よりも大きな下落率となっています。

※2018年に算定根拠となるDK-SIS会員と会員以外の業績差の見積りの全面的な見直しを行い、業界全体の推測値を再計算したことにより、過去に発表した売上規模・粗利規模を上方修正しています。

## ■ 今後の業界動向推測

2020年は新型コロナウイルスの感染が広がった3月以降に業績への影響が表れ始め、4・5月には緊急事態宣言に伴う要請に従い休業が行われました。その後、業績は徐々に回復したものの、2020年7月に業績が前年比約80%となった以降は横這いで推移し、頭打ちの状況が続いています。新型コロナウイルスの影響はまだまだ収まる気配がないことを考えると、2021年もコロナ禍前の水準まで業績が回復することは難しいと予想されます。

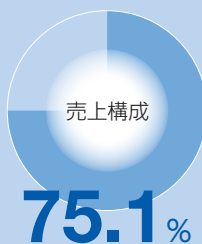
さらに、2022年1月末には旧規則機の撤去期限を迎え、その入替費用を捻出する必要があることや、旧規則機に業績を大きく依存するパチスロではさらなる業績下落となる可能性があるなど、2021年も業界にとって非常に厳しい1年になると考えられます。

ただし、暗い話題ばかりではなく、パチンコでは「遊タイム」機などの旧規則機にも劣らない魅力を持つ新規則機がすでに複数登場しており、ファンに支持されています。また、パチスロでは6.1号機や有利区間の上限が3,000ゲームに延長された機種が登場することで、従来の6号機よりも幅広いゲーム性を有した機種が登場することが予想されます。こういった機種のトレンドを踏まえた上で、日々の営業や機種構成、パチンコ・パチスロの台数比率の見直しを行うことがこの苦難を乗り越えるために必要不可欠になると考えられます。

今後も重要な意思決定の材料の一つとして、当社の「DK-SIS」は提案を続けていきますので、ご支援の程、よろしくお願いします。

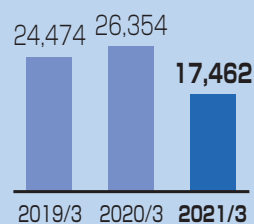
## 情報システム事業

パチンコホール向けに、店舗運営に必要な管理機器「ホールコンピュータ」をはじめとする情報システム機器を提供するなど、企業経営・店舗運営を支援しています。

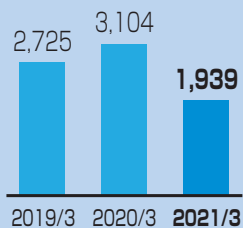


(単位: 百万円、単位未満は切捨て)

売上高

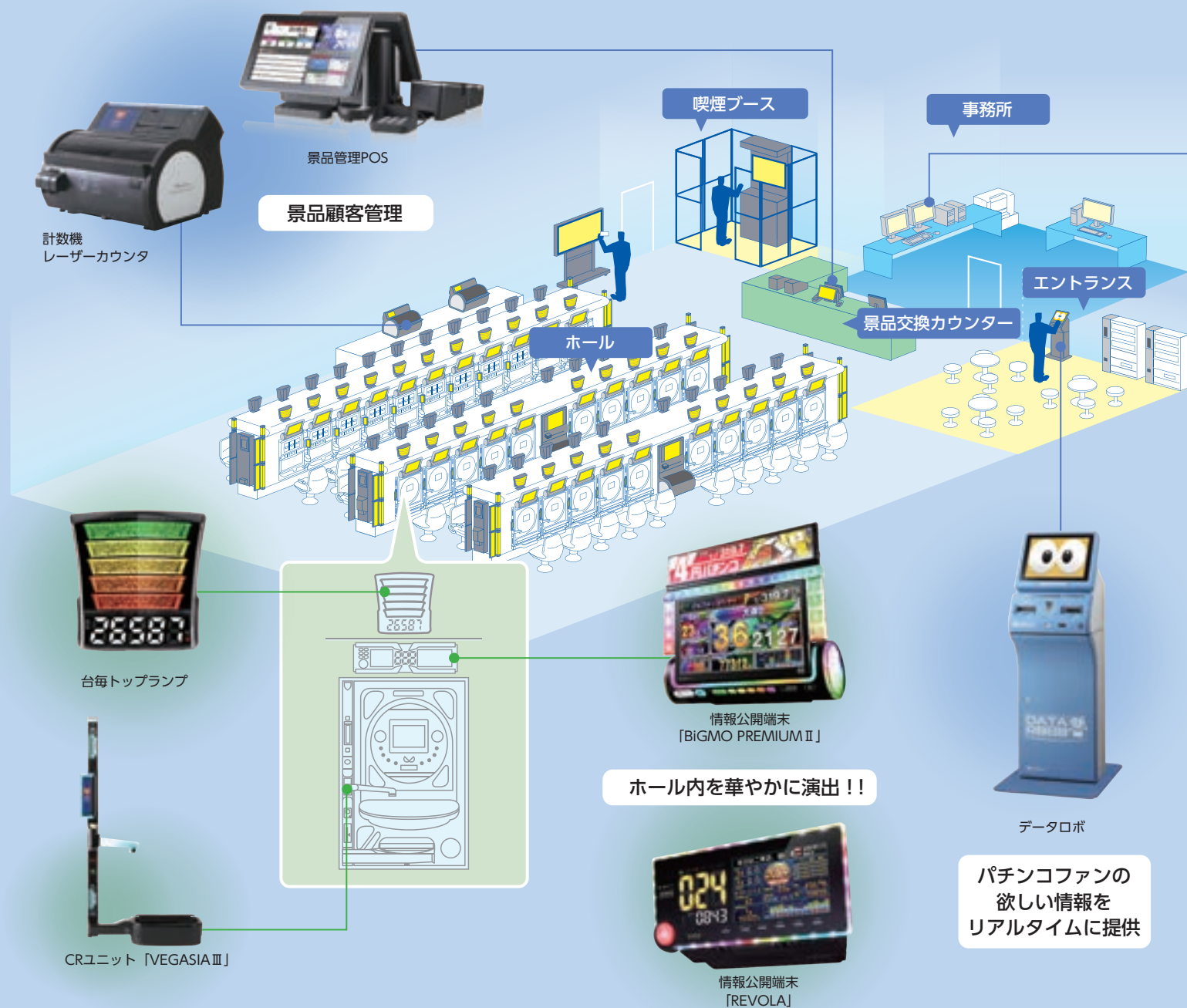


セグメント利益

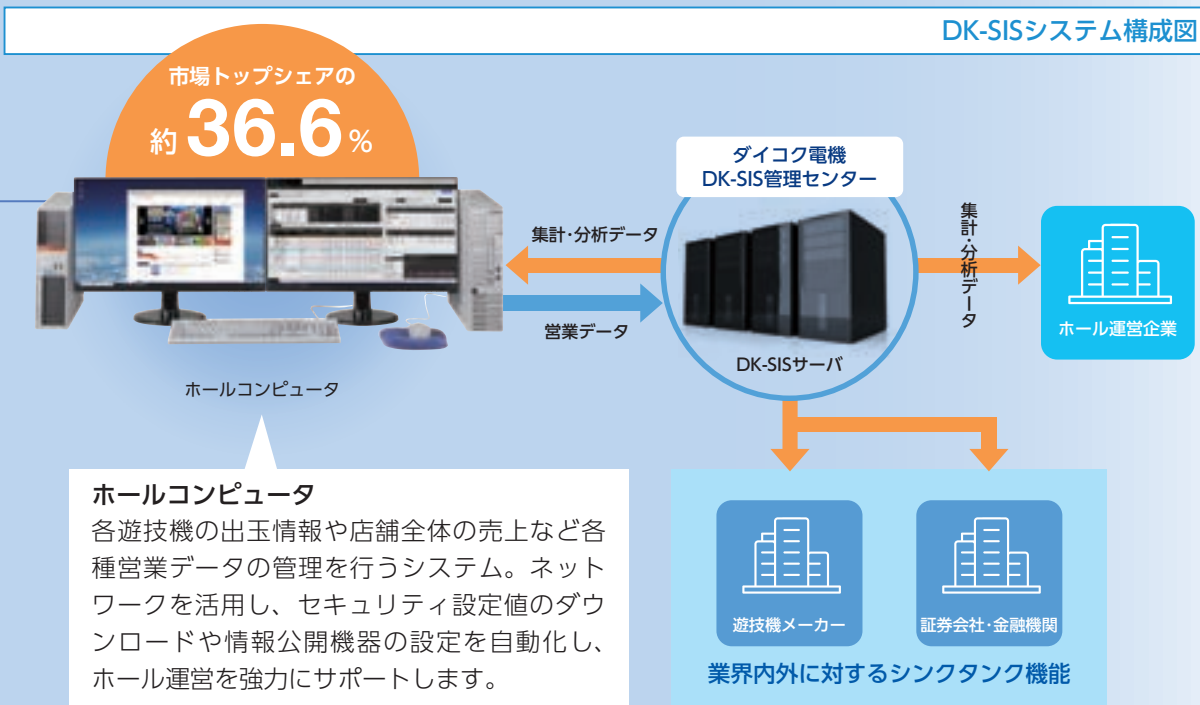


### 当期の営業概況

新店や改装工事の多くは延期または中止となる厳しい市場環境となり、当事業の主要製品の販売は前年度を大きく下回りましたが、パチンコ遊技機につきましてはヒット機種が複数登場し、新たなファン層を獲得している「遊タイム」機の導入も進んでいることから、パチンコホールではパチンコ遊技機向けの設備投資は進み、「遊タイム」機の情報ファンに分かりやすく伝える情報公開端末「REVOLA」や「IL-X3」の販売は、年末商戦以降、順調に推移しました。この動きに併せ「遊タイム」機の実データ管理を目的としたAIホールコンピュータ「X(カイ)」のシステムアップ導入件数も前年同期比約90%まで進捗しました。



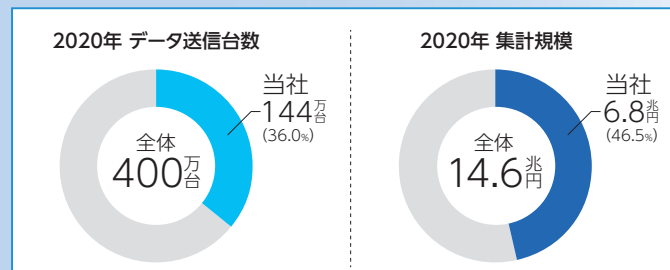
# を提供し続ける市場創造型の企業です。



## 会員制情報提供サービス「DK-SIS」

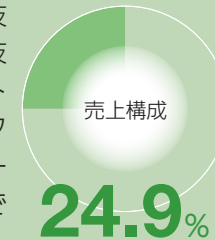
「DK-SIS」は、1990年に店舗経営を支援する会員制システムとして誕生しました。パチンコホールの基幹システムであるホールコンピュータとダイコク電機とを専用回線で結び、日々の営業データを収集し、分析、加工後、パチンコホールに各種データを提供する顧客支援システムです。遊技機データ量は約144万台分、金額換算すると6.8兆円分のデータをベースに、遊技機動向や営業データなど付加価値の高い情報を提供。ホール経営支援から業界の発展にも貢献しています。

このビッグデータを活用し、証券会社や金融機関など業界外にもパチンコ業界の指標を配信。リアルタイムで客観的な数値情報を公開することで、業界に対する信頼を構築しています。

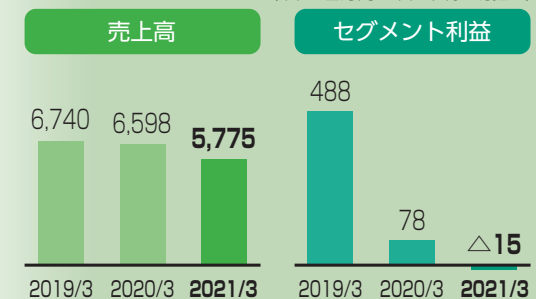


## 制御システム事業

パチンコ・パチスロ遊技機メーカーに対し、遊技機の表示や制御ユニットのハードウェア及びソフトウェアの開発からセールスプロモーションまで手がけています。



(単位: 百万円、単位未満は切捨て)



## 当期の営業概況

パチンコホールの稼動状況の回復が鈍化していることもあり、各遊技機メーカーでは、新作タイトルの販売は延期され、市場全体のパチンコ遊技機販売台数は大きく減少しました。当事業においても部品販売は前年度を上回りましたが、表示ユニット、制御ユニットの販売は前年度を下回りました。

DK



遊技機市場の変化に対応した企画開発



映像制作・プログラミング



品質管理  
(デバッグ・検査)



表示用ユニット、  
制御用ユニットの提供

遊技機メーカー

## NOW 一歩先行く新型コロナウイルス対策製品

2020年より猛威をふるう新型コロナウイルスはパチンコ業界にも大きな影響を与え、その対策は余儀なくされました。当社も新型コロナウイルス対策に主眼を置いた新製品・新機能をリリースし、感染対策だけにとどまらない当社ならではの「+α」の機能がお客さまより高い評価をいただいています。その一例をご紹介します。

### 【ワンストップセルフカウンター】

遊技後の賞品交換をパチンコファンがセルフで行うことで、ホールスタッフとの接触・感染リスクを低減します。また、プリペイドカードの残高精算を行う現金精算機とセルフPOSを一体化することで、遊技後の手続きを一か所で完結することができ、利便性や運用効率を大幅に向上させました。今やセルフPOSは当たり前になりつつありますが、まさに一歩先の要素をプラスした、ファン・ホール双方にメリットの大きい製品です。



### 【情報公開機器「清掃・消毒済み」表示】

新型コロナウイルス感染防止対策として、遊技台清掃や消毒作業によりホールスタッフの業務量が増加しています。この機能は、ファンの遊技終了をホールコンピュータで自動検知し、清掃・消毒の必要がある遊技台をホールスタッフに通知し、作業完了後は「清掃・消毒済み」であることを情報公開機器に表示する機能です。この表示があればファンは安心して遊技することができます。また、ホールスタッフは清掃・消毒が必要な台がひと目でわかるため、効率的に作業でき、作業漏れも防ぐことができます。ホールコンピュータ連動ならではの他社にまねのできない機能です。



当社は時勢に即しながら、そのさらに一つ先を目指した製品・機能の開発に取り組んでいます。今後も時代のニーズに対し、お客さまの期待以上の製品・サービスで応え、当社の価値を一層高められるよう努めていきますので、引き続きご支援の程、よろしくお願いします。

## NOW 「DK-SIS Webセミナー」開催

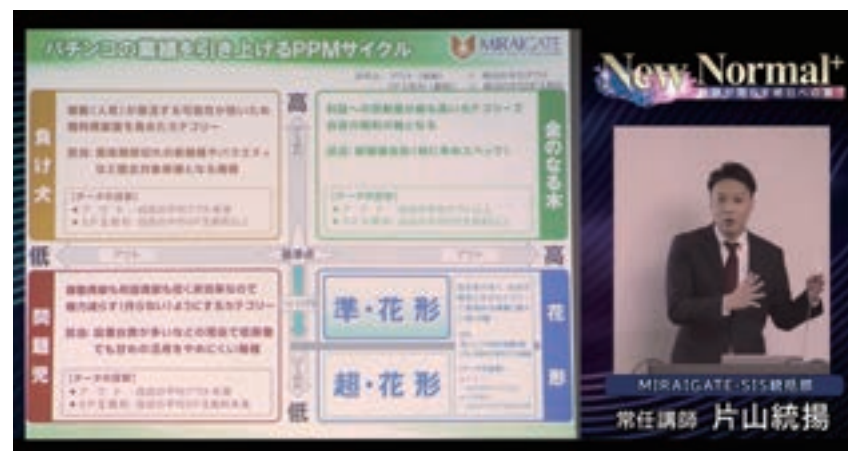
2020年9月に開催した業界初となるWeb展示会&セミナーに続く第2弾として、2021年3月15日から19日までの5日間、DK-SISオンラインセミナー「New Normal+ 軌跡が照らす明日への扉」を開催しました。

パチンコ業界は2022年1月31日の旧規則機の設置期限に向けて、新規則機への入れ替え期間のさなかです。導入する機種を選択や運用方法次第では、ファン離れを防ぐことができず、業績が大きく下落することも予想されるため、パチンコホールにとって非常に重要な局面となります。

セミナー前半ではDK-SISデータからみる業界動向として、2020年のコロナ禍による業績への影響や、2021年の旧規則機撤去の影響予測について解説しました。また、パチスロ遊技機について、機種間の活用バランスの見直しによって業績向上する可能性などについてお伝えしました。

セミナー後半ではパチンコ遊技機に焦点を当て、当社の「Xai-TACT」等利用したパチンコの業績アップに向けた「超実践パチンコデータ管理手法」を提案しました。また、当社が保有するビッグデータの分析結果から見える業績内容の傾向とその注意点を解説し、課題解決につなげるポイントを説明しました。

5日間のWebセミナーを終え、5,000名を超えるお申込みをいただき、ご参加された皆さまからは多くのお喜びの声をいただきました。今後もセミナー内容をより充実させ、パチンコホールの業績向上につながるよう努めていきます。



## NOW 「名古屋市ワーク・ライフ・バランス推進企業」 認証を取得

当社は、「名古屋市ワーク・ライフ・バランス推進企業」として認証され、名古屋市から2020年12月15日に認証書を授与されました。

当社では、ワーク・ライフ・バランスを推進するために、時間に制約のある従業員への配慮や、各種制度を利用しやすい職場環境の整備、男女ともに働きやすい職場づくりとして、以下の取り組みを行なっています。



- ▶マイライフ勤務（結婚・育児・介護による時短勤務）制度
- ▶テレワークや残業削減推進 ▶スライド勤務制度
- ▶半日有給休暇／時間単位の有給休暇制度 ▶誕生日休暇／結婚記念日休暇制度
- ▶通信教育補助制度 ▶24時間健康相談ができる健康サポート窓口設置
- ▶自社保養所／リゾート施設やゴルフ場の法人契約

今後も当社は、従業員に対して、子育て支援や有給休暇の取得促進、長時間労働の抑制など、ワーク・ライフ・バランスの取り組みを推進し、従業員が仕事上の責任を果たすとともに、生活と仕事を両立しながら、多様な生き方を選択・実現できる企業を目指します。

### 「名古屋市ワーク・ライフ・バランス推進企業」 認証制度について

名古屋市内に事業所のあるワーク・ライフ・バランスの取り組みをしている企業等について、一定の基準を満たす企業等を「名古屋市ワーク・ライフ・バランス推進企業」として認証。



## NOW 「ロボットプログラミング体験教室」 開催

当社では、教育プログラミング教材「TEC Cubic(テックキュービック)<sup>※1</sup>」とプログラミングソフト「Scratch Pi(スクラッチパイ)<sup>※2</sup>」を使用して、当社独自のノウハウで運営するプログラミング教室「ロボキューブ<sup>※3</sup>」の展開に取り組んでいます。

その一環として、2021年1月に名古屋市が事務局を務める「名古屋少年少女発明クラブ」に協力し、「ロボットプログラミング体験教室」を4日間開催しました。定員を大きく超える100名以上の応募者があり、抽選で選ばれた小学4～6年生、1回4～6名ずつ計8回、43名（付き添いご家族さま47名）にご参加いただきました。

体験教室では最初にゲームを使ってパソコンの基本操作を覚えるところからスタートし、最終的には試行錯誤しながら「TEC Cubic」を使用して思い通りのロボットを完成させ、ロボットプログラミングの基本を楽しく学習していただきました。参加した小学生の皆さんはプログラミングの基本を学ぶと同時に、その可能性とモノづくりの面白さに触れ、目を輝かせていました。

2020年度から小学校でプログラミング教育が必修となったこともあり、プログラミング教材の注目度は高まっています。今後もさらにコンテンツを充実させ、社会で求められているプログラミング教育・人材育成に貢献していきます。



※1.TEC Cubic：電子ブロックとメカブロック(積木)を自由自在に組み合わせ、モノづくりを楽しみながらプログラミングが勉強できるブロック ※2.Scratch Pi：プログラミング学習用ソフト ※3.ロボキューブ：当社の登録商標

# 会社及び株式の状況

(2021年3月31日現在)

## 会社概要

商 号 ダイコク電機株式会社  
DAIKOKU DENKI CO., LTD.  
創 業 1965年 9月  
設 立 1973年 7月  
資 本 金 6億7千4百万円  
本 社 名古屋市中村区那古野一丁目43番5号  
従業員数 (単独) 428名 (連結) 646名  
事業内容 パチンコホール向けコンピュータシステムの開発・製造・販売  
パチンコ遊技機用ユニット・パチスロ遊技機の開発・製造・販売  
決 算 期 3月31日  
事 業 所 3事業所、4支店、13営業所  
連結子会社 元気株式会社、DAXEL株式会社、  
ダイコク産業株式会社、アロフト株式会社

## 役員 (2021年6月29日現在)

|         |           |
|---------|-----------|
| 代表取締役会長 | 栢 森 雅 勝   |
| 代表取締役社長 | 大 上 誠 一 郎 |
| 代表取締役専務 | 栢 森 健     |
| 常務取締役   | 栢 森 啓     |
| 常務取締役   | 大 成 俊 文   |
| 取締役     | 藤 巻 靖 裕   |
| 取締役     | 松 原 真 那 武 |
| 取締役     | 加 藤 忠 芳 憲 |
| 取締役     | 岡 本 篤 夫   |
| 取締役     | 尾 関 貴 夫   |
| 取締役     | 足 立 芳 寛   |
| 取締役     | 武 田 邦 彦   |
| 常勤監査役   | 吉 川 幸 治   |
| 監査役     | 田 島 和 憲   |
| 監査役     | 知 念 良 博   |
| 監査役     | 中 島 健 一   |

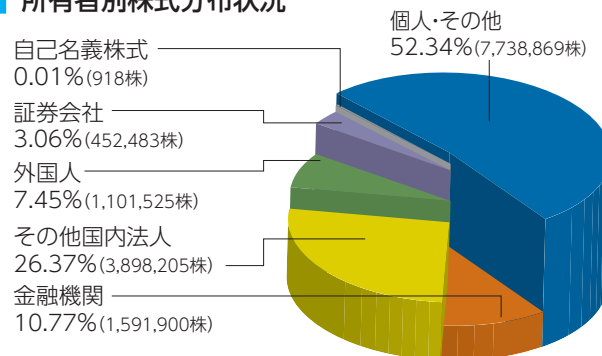
(注) 1. 取締役 足立芳寛氏、武田邦彦氏は社外取締役であります。

2. 監査役 田島和憲氏、知念良博氏、中島健一氏は社外監査役であります。

## 株式の状況

発行可能株式総数 66,747,000 株  
発行済株式総数 14,783,900 株  
株主数 10,094 名

## 所有者別株式分布状況



## 大株主

| 株主名                     | 持株数(株)    | 持株比率(%) |
|-------------------------|-----------|---------|
| 栢森 健                    | 1,652,200 | 11.17   |
| 栢森 雅勝                   | 984,650   | 6.66    |
| 栢森 美智子                  | 926,000   | 6.26    |
| 栢森 寿恵                   | 813,100   | 5.50    |
| 栢森 和代                   | 773,000   | 5.22    |
| 公益財団法人栢森情報科学振興財団        | 750,000   | 5.07    |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 621,900   | 4.20    |
| 栢森 綾音                   | 443,500   | 3.00    |
| 栢森 新治                   | 443,450   | 2.99    |
| 株式会社日本カストディ銀行(信託口)      | 280,200   | 1.89    |

## 株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日  
定時株主総会 6月下旬  
基準日 定時株主総会 3月31日  
期末配当 3月31日  
中間配当 9月30日  
その他必要があるときは、  
あらかじめ公告いたします。

一単元の株式数 100株

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所 〒460-8685  
名古屋市中区栄三丁目15番33号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先 〒168-0063  
電 話 照 会 先 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
TEL.0120-782-031 (フリーダイヤル)  
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の  
本店及び全国各支店で行っております。

公 告 方 法 電子公告によります。ただし、やむを得ない  
事由によって電子公告ができない場合は、  
日本経済新聞に掲載いたします。

公告のホームページアドレス  
<https://www.daikoku.co.jp>